

ねらい ○いろいろな素材の特性を活かし、自由に発想し工夫して作ったり試したりして遊ぶ。 ○自分の発想を友達に伝え、相談したり協力したりして遊ぶ。

8:35 登園

朝の挨拶を交わしながら温かく迎え入れ、落ち着いた気持ちで一日がスタートできるようにする。

9:05 げんきこタイム

体ほぐし体操・ドングリ体操

9:30 見つけた遊び

10:30 片付け

11:00 学級で共有する活動

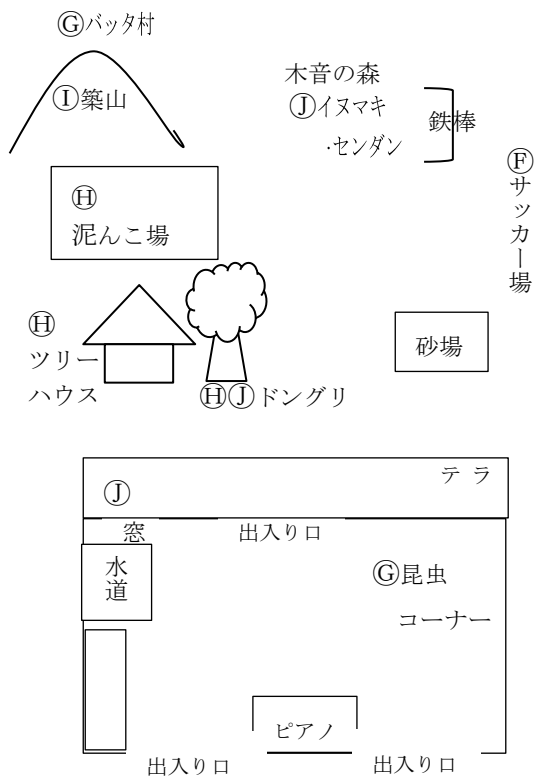
11:30 弁当・歯磨き

12:30 降園準備

13:00 「アイデアいっぱい おもしろそう みんなでやってみよう」 (自分で見つけた遊び)

13:40 片付け

14:00 「ともだちの〇〇っていいね。」 学級で共有する活動 (みてみてきいておはなしタイム)



14:30 降園

予想される幼児の活動

[□環境の構成 教師の援助 (・共感する、見取る、見守る ○意味付け ☆価値付け ⇒力付け)] ㊦㊧㊨㊩㊪は活動の構想と対応

㊦体を動かす遊び (縄跳び、鉄棒、サッカー、自転車)

・友達と一緒にルールを考えたり、チーム分けや役割分担をしたりして、思いや考えを伝え合いながらサッカーを楽しむ。
・鉄棒や縄跳び、自転車など、「今日は○回跳びたい。」など自分のめあてをもち、なかなか出来ないことや、難しいことに向かって繰り返し挑戦する。また、友達とやり方を教え合ったり応援し合ったりし、かかわりを深める。

㊧身近な昆虫と触れ合う遊び (クワガタ研究所、クワガタ・カマキリ遊び場作り、カマキリなど)

・カマキリやクワガタムシ、カブトムシ、テントウムシなど部屋で飼育している昆虫に思いを寄せ、餌を見つけて与えたり、住み心地を考えながら飼育ケース中の土や草、枯れ葉の状態を確認し、必要に応じて新しいものに取り替えたり整えたりする。
・友達と相談して、「カマキリはエサを捕まえるのに隠れる場所があったほうがいい」等生態を捉え、それに合った家や遊び場作りを工夫する。
・飼育している昆虫を観察して生態を調べ、その特徴や発見したことを友達と一緒に伝え合い、絵で表現して貼り (新聞、ポートフォリオ) 興味関心を深める。また、昆虫に気持ちを寄せて世話をし、昆虫が喜ぶように飼育ケースの中や遊び場を工夫して作ったり、エサの大きさを選んで与え、様子を見たりする。

㊨土・砂・泥の遊び (ピザ作り、クッキー作り、ごちそう作り、さら粉作り)

・自分のイメージしたクッキーを作るために、様々な質感の土や砂、木の実などの自然物を混ぜ合わせたり、形を作ったりする。
・「きれいなクッキーが作りたい。」などと、自分なりのめあてをもち、必要な土や泥を選んだり、水の量を考えたりして、土の性質を活かして作り方を工夫する。
・「今日は、昨日よりトロトロにしよう。」という新たな発想をもったり、友達が行っている工夫を取り入れたりしながら試してみる。
・「今日は何ピザを作ろうかな。」「それいいね。」などと、友達と作りたいもののイメージや思いを共有し、自分の考えや思いを伝え合いながら、一緒に作る過程を楽しむ。
・より細かいさら粉を集めるために、集める方法や使う道具などを自分なりに考えて工夫してみる。
・お客さんに食べてもらいたい、喜んでもらいたいという気持ちをもち、作ったごちそうを並べたり、友達と考えを出しながら店に必要な看板やメニュー表を作ったりする。

㊩泥団子作り、泥団子転がし (泥団子レベル)

・「こんな泥団子が作りたい」「～するために泥団子を作ろう」という自分なりのめあてをもち、必要な土や泥を選んだり、作り方を工夫したりして泥団子作りをする。
・友達と作りたい団子のイメージや思いを共有し、ひびの直し方や必要な土の種類などを教え合う。
・転がした泥団子が壊れたら、「壊れないためにはどのような泥団子がいいのか?」をじっくり考えたり、違う作り方を試し大きさや硬さを調整したりして、発想を広げながら遊ぶ。
・友達で作っている泥団子を見たり作り方を聞いたり、または自分の方法を伝えたりして、「もっと強い泥団子を作りたい」「ピカピカの泥団子を作りたい」などという気持ちをもちながら遊ぶ。
・自分達で考えた泥団子レベルのコースに泥団子を転がして、自分の作った団子が硬いかどうかを試して遊ぶ。

㊪秋の自然物を使った遊び (ごちそう作り、アクセサリー作り)

・ドングリやクヌギ、イヌマキ、コスモスの花びらなど自然物を集め、色合いや形の特徴を考えながら、ごちそう作りやアクセサリー作りなどの遊びに活かす。
・「木の実だけじゃなくて花びらも使って作ろう」など、自分の考えや思いを友達と伝え合いながら、一緒に作る過程を楽しむ。
・高い木にある木の実 (柿やザクロなど) を、どのように採るかを友達と考えたり、協力したりして採る。

片付けをしよう

・みんなで力を合わせて、遊びの場を整え片付ける。

みてみてきいておはなしタイム

・工夫したこと、新しい発想、友達と協力したこと等をみんなに話したり、ものを見せたりして伝える。
・友達の話聞いて思ったことや考えたことなどを話し、友達と思いを共有する。

☆⇒チャレンジカードを使って、その子が「後ろ跳びに挑戦する。」などと、具体的なめあてをもち挑戦出来るようにする。子どもの気持ちや達成感を具体的に認める。また、新たなめあてに向かえるよう力付けることで、自信がもてるようにする。
☆思うようにできない悔しさや挑戦しながら感じる難しさなどの感情を受け止めて励ましたり、個々に応じた段階をおって挑戦できるように言葉をかけたりすることで、根気強くやってみようという意欲がもてるようになる。
☆友達の出来るようになりたいという思いを共有し、頑張る姿を応援したり、自分なりのやり方を教えたりする姿を価値付ける言葉をかける。
☆⇒サッカー遊びでは、お互いが楽しく遊ぶためにどうするといいかを子ども同士で考えられるよう力付ける。言葉で伝え合いながら自分達でルールを考えていけるように見守り、必要に応じて、子ども達の考えを整理したり、思いを言葉で表出する支えをしたりする。
☆友達と一緒に体を動かして遊ぶ楽しさや気持ちよさ、充実感を味わっている表情や言葉を価値付ける言葉をかける。

☆友達と一緒に昆虫に触れたり、観察したりする中で、気付いたり発見したりしたことを可視化することで、思いを共有したり、新たな気付きや発見に繋がったり、興味関心が深まっていくようにする。
☆⇒気持ちを寄せて世話をしたり遊び場を考えたりする姿を認め、「どうしたら喜ぶかな」「今どんな気持ちなんだろうね」など声をかけることで、より愛着をもったり命を大切にしようという気持ちをもったりしながら触れ合えるようにする。またそういう姿がみられた時には、「気持ちを考えて作っているね。」「嬉しいと思うよ。」などと、その姿を価値付けていく。
☆異年齢の友達とのかかわりで、優しく接したり教えたり手伝ったりする気持ちを価値付ける。
□自分達で調べられるよう図鑑や、デジタル顕微鏡、ケースの中や遊び場の工夫に使えそうな廃材などを用意しておく。子どもが「～したい」という願いを実現できるように、必要なものを一緒に考えたり探したりする。

☆子ども達が、様々な土や砂の特性を生かしてクッキーを作り、その中でその子らしい発想や友達同士で発想を組み合わせる姿を捉え、その細かいところの工夫や発想を認めていき、驚いたり感心したりして価値付ける。
・○友達と共に遊びを作り上げていくおもしろさや嬉しさに気づいていけるよう、遊びが発展しそうな機会を捉え、問いかけたり共感したりして、今後の遊びに見通しをもたせる。
☆自分が作りたいもののイメージに合うように、使う土や泥の性質を考えて遊びに取り入れる姿を認め、その性質が活かされている場面で価値付ける言葉をかける。
⇒一人一人の遊びの経過を振り返る言葉をかけ、イメージの実現に向かって次はどうしていくか、子ども自身が新たな発想をしたり、友達の工夫を思い出したりして試行錯誤する姿につながるよう力付ける。
⇒それぞれの遊びを子ども同士で認め合い、思いやイメージを共有する姿を丁寧に捉え、それぞれの遊びが繋がったり、共通のめあてや願いにつながったりして遊びが発展できるよう力付ける。
☆異年齢の友達を遊びに誘ったり、遊び方を教えたりする姿を認め、かかわりを楽しくするように支える。
□一人一人の探究が集まり、友達からヒントを得たりお互いに触発し合ったりできるように場の設定をする。
□自分の作っているものや遊びの場、遊びに必要な道具を大切に整えられるように、場や方法を子どもと考える。その日に遊んだものを教師も大切に扱い、学級みんなでその子の思いを共有できるようにしておく。

□泥団子作りで、その子なりの「硬い団子」の願いを達成させるまで試行錯誤しながら工夫して作れるように、泥んこ場の土を耕したり、水分を含ませたりして、さまざまな質感が出るようにしておく。
⇒泥団子にひびが入る等、なかなかうまくできない時には、友達に聞いてみることを促したり、「どんな方法が他ににあると思う?」と問いかけて違う方法に発想を切り替えたりするよう力付ける。
☆試行錯誤したり工夫したりしながら泥団子作りができるように、自分達なりに予想して考えたり、工夫して作ってみたいする姿を「この方法で硬くなるって考えたんだね。楽しみ。」「その方法だったからこのレベルまで割れなかったんだね。」など、具体的に認める。
⇒○工夫している姿や発想に共感し、「その方法だとどうして強くなるの? どうしてこのやり方で作っているの?」等、めあてが明確になるように声をかけ、意欲的に遊べるようにする。

☆⇒自然物を活かして、考えたり工夫したりしてごちそうに活かしたり、イメージを膨らませて新たな遊びを生みだしたりなどする姿に対し、遊びの過程を価値付ける言葉がけをしたり、遊びが深まっていけるような問いかけをしたりしていく。
☆見つけた木の実などを友達と共有したり、どのように遊びに活かすかを考えたりする姿を大切に、友達とのかかわりが深まるようにつなげていく。
⇒それぞれの遊びを子ども同士で認め合い、思いやイメージを共有する姿を丁寧に捉え、それぞれの遊びが繋がったり、共通のめあてや願いにつながったりして遊びが発展できるよう力付ける。

・その日の遊びの満足感を感じたり、次の日に気持ち良く遊べたり出来るよう整理をしたりきれいに並べたりしながら片付ける事を伝える。進んで片づけている姿や最後まで頑張っている姿を褒め、きれいになったことを一緒に喜びながら気持ちよさを味わえるようにする。

・話したいことを子どもの言葉で表すことが出来るよう、伝えたい気持ちへと広がるように、遊びの過程で子どもに価値付けていく。特に思考し新たな発想が生まれていたり、友達と相談しあったりしていた場面や姿(思いを伝えていた姿や、友だちを助けていた姿等)等を価値付ける。
・うまいかなかったり、困ったりした話では、学級で思いを共有し、みんなで方法やアイデアを出し合って考えていけるようにする。
・子どもの気付きや発想を全体で共有できるように、写真や絵等のポートフォリオを使って話し合いを進める。また、翌日への遊びの方向性や一人一人のめあて、意欲が高まるように力付ける。